Ehime Medical Center

愛媛医療センターニュース

石鎚 ーいしづちー

2016
第43号
4月1日発行

発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛医療センター　発行責任者:院長 岩田猛　http://www.ehime-nh.go.jp

重症心身障がい児（者）病棟の患者さんと療育指導室が丹精した花壇

4月からの救急体制に向けて

病院内の桜花も散り始め、若草の萌える季節になりました。平成28年度、うれしいことに当院では、多くの新しいメンバーを迎えることができました。同時に変革の春にもなりました。

当院はこの4月から松山医療圏域（松山・伊予・東温の3市と松前・砥部・久万高原の3町）の2次救急病院としての役割をスタートしました。2次救急というのは、1次救急にあたる急患センターやかかりつけ医で入院が必要と判断された人や、救急車で搬送される人など比較的症状の重い患者さんを診療するものです。救急医療体制は重症度に応じて1次から3次までの三段階に分かれており、それぞれが役割を分担することで必要な人に必要な医療が適切に施されるようになっています。この体制がうまく機能するように国や各救急病院は、日中に体調が悪い場合には昼の間にかかりつけ医を受診すること、軽症の人が直接2次救急に来るのは避けることなどを呼びかけています。

当院は2次救急を担う15の救急病院のひとつとして、8日に1回、当番病院として診療にあたります。社会的意義が大きいとは言え、決して十分とは言えない医療スタッフの数で救急医療に乗り出すことは大きな決断でした。スタッフには精神的にも肉体的にも負担を強いることになります。地域の皆様にはこれまでになかったご不便をおかけすることがあるかもしれません。

深刻な医師不足という現実に反して、求められる医療の体制や質はどんどん高くなっています。限られた人と設備でより良い医療を提供したいと願う当院に、皆様の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

副院長　阿部 聖裕

格物究理
第11回　院内研究発表会

平成28年２月26日㈮に恒例の院内研究発表会を開催しました。早いもので11回目となり、今回も３時間にわたって16演題の発表がおこなわれました。医局から６、看護部から４、医療チーム（糖尿病チーム、RST）から２、検査科から２、栄養管理室・療育指導室から各1演題の発表がありました。各職場で行われている色々な独自研究・検討が発表され、活発な質疑応答がありました。

本年度より「院長賞」と「臨床研究部長賞」が設けられました。各発表に独自性があり選定は困難でしたが、院長賞には栄養改善で活躍されている田中倫代栄養士等（栄養管理室）の「当院における担がん入院患者の栄養管理・現状と課題」が選ばれ、臨床研究部長賞には研究計画・結果分析にすぐれていた中村行宏医師（呼吸器内科）の「ネーザルハイフローが早期に中止された症例の検討」が選ばれました。

開催時間が勤務時間と重なるため聴衆が少ないことが難点ではありますが、飲食物も用意されていて楽しい発表会になったと思います。来年度は発表・聴講ともにさらに多数参加して頂くようにお願い致します。本年も準備してくださった関係者に感謝致します。

臨床研究部長　松田 俊二

発表演題一覧

第Ⅰ群
1. 個別シートを活用した神経難病患者・家族のニードに基づいた看護提供への取り組み
2. 治療から療養へ移行する患児を支える中間小児科施設としての今後の課題
3. 当院における担がん入院患者の栄養管理・現状と課題
4. 当院における微生物検査の分離状況について　～2015年の年間統計から～
5. ＩＣＦをもちいた療育活動の実践

第Ⅱ群
1. 意識下手術を受けた患者のプライバシー配慮と羞恥心に対する調査
   ～患者目線でのプライバシー保護を目指して～
2. 外注検査項目の院内化について　～院内化におけるメリットとデメリット～
3. 当院糖尿病チーム活動報告と新たな試み「患者参加型糖尿病教室を経験して」
4. 当院におけるＲＳＴ活動の変遷と課題
5. ネーザルハイフローが早期に中止された症例の検討

第Ⅲ群
1. 片足膝窩部への温熱加温が下肢温度と血流に及ぼす効果
2. ガレノキサシン投与後翌日に過性心停止を来した一例
3. 急性腹症に対する腹腔鏡手術―腹腔内手術動画による解説を中心に―
4. 当院におけるヘリコバクターピロリ除菌の現状
5. 当院の結核病棟ユニット化の現状と問題点
6. 「疾患特異的iPS細胞作製研究基盤支援整備研究」
   （ＮＨＯ指定研究）について

院長賞を受賞した田中栄養士（左）と
臨床研究部長賞を受賞した中村医師

地域の輪

繋がる地域医療連携

かいごの郷　梅本の里

松山市の北梅本町に高齢者総合福祉施設を運営している梅本の里といいます。梅本の里は平成６年にケアハウスとデイサービスを、その翌年には特別養護老人ホーム、訪問介護事業等を開設させ、開設より23年目を迎えようとしています。

特別養護老人ホーム開設後も居宅支援事業やグループホームを開設させ、総合的に高齢者の要望に応えられる、地域になくてはならない福祉施設を目指し、努力を続けているところです。

施設の開設より一貫して地域に根差せる福祉を目指すとの観点から、平成23年には地域の商店街通りに、新たな地域コミュニティーの拠点と発信の場を目指し、在宅介護を中心とした梅本の里・小梅も開設しました。小梅についてはこれまで地域の方々に多くの協力を頂きながら、高齢者から子どもまで気軽に立ち寄れる空間として少しは地域に役立っているのではないかと感じているところです。また、小梅は事業所内託児所も開設しており、高齢者と子どもたちが融合できる空間としても新たな挑戦を続けていますので、ご利用やご相談のない方もいつでも気軽にお立ち寄り頂ければと思います。

これからも社会福祉法人として地域への使命が果たせるよう、小さなことの実現を目指し、職員一同頑張ってまいりますので、宜しくお願いいたします。

施 設 名：社会福祉法人紅梅会　梅本の里
住　　所：松山市北梅本町1624-1
電　　話：089-975-6985
ファックス：089-975-7946

STOP PANDEMIC

当院で インフルエンザ 対策訓練

当院では、2016年１月７日に愛媛県中予保健所、愛媛県警本部、東温消防署と合同で、「新型インフルエンザ等対策訓練」を行いました。

訓練は、愛媛県内では感染者は未発生の時期に、東温市内の住民が感染疑いのため当院で診察を受けるという設定です。当院では、感染対策チームと外来職員が主な対応にあたりました。複数回の打合せを保健所と重ね、当日は午後からスタートしました。住民からの連絡を受けた保健所担当者が保健所内外と連絡とり、当院は診察要請を受けた後に、院内調整を図り受け入れ態勢を整えます。そして、保健所職員が感染症用搬送車で患者を移送し、専用診察室で診察や検体採取を行います。その後採取した検体を厳重に梱包後、愛媛県警警備課の警察車両により愛媛県衛生研究所に運ぶまでの訓練でした。

通報訓練中の当院参加者

新型インフルエンザ疑いの患者を搬送

机上の連絡訓練に加え、患者移送、診察や検体採取、個人防護用具の着脱は実技訓練を行っています。なかでも、警察官の無線連絡が始まると一層空気がピリっとし、リアリティが出ていました。また、各機関のみなさんと紙上のやり取りだけでなく、顔を合わせて話しをし行動したことは良い経験となりました。

当院では2009年にも合同訓練を行いましたが、このときは訓練から３ヶ月後に新型インフルエンザ（H1N1）がパンデミックとなりました。以降も、MERSやエボラ出血熱といった感染症が次々と流行しています。これらの感染症を決して「よその国、よその病院のこと」と思わず、病院としてできる準備は必要です。やってみないとわからないことがたくさんあります。今回の訓練での改善点などを踏まえ、今後も各機関と協力して取り組んでいきたいと思います。

感染対策係長　若林 美代子

医心伝心

COPDのおはなし

各科のドクターがそれぞれの専門分野から、病気・治療・予防等々フリーテーマで一文をしたためます。

生活習慣病とは食事、運動、飲酒などの日々の生活習慣によって引き起こされる病気の総称です。生活習慣病というと糖尿病や脳卒中、心筋梗塞などが浮かぶ方が多いと思いますが、肺にも生活習慣病があります。慢性閉塞性肺疾患（COPD）がその１つです。

COPDとはタバコなどの有害物質を吸い込むことによって気管支や肺などに障害が生じる病気です。COPDという病気をご存じない方も多いと思いますが、40歳以上の日本人の10人に1人はCOPDとの報告もあり決して珍しい病気ではありません。

COPDの初期症状はしつこく続く咳、痰、息切れなどです。これらはありふれた症状のため、気づかずに見過ごされてしまうことがあります。しかし、そのまま放っておくと症状はどんどん進行していきます。さらに、COPDは栄養障害や筋肉量の低下、心筋梗塞、脳梗塞などの併発症を誘発することがわかってきました。COPDの方は肺癌になる頻度も高いことも知られております。

COPDの診断にはスパイロメーターを用いた肺機能検査をおこないます。この検査は特別な準備は必要なく数分で終わります。また、肺機能検査から「肺年齢」が計算できます。「肺年齢」とは実年齢との乖離から呼吸機能の異常を早い段階で認識してもらう概念です。実際の年齢より「肺年齢」が高い場合にはCOPDの可能性があります。

COPDの治療は「禁煙」が基本です。また、薬物療法や運動療法を取り入れることで症状の軽減や病気の進行を遅らせることができます。

喫煙されている方で長引く咳や痰がある方は早めに受診することが必要です。また、症状がなくても喫煙されている方は一度肺機能検査を受けられて「肺年齢」を確認されることをお勧めします。

呼吸器内科医長　伊東 亮治

スッキリ 正面玄関

平成28年４月から松山医療圏２次救急輪番制に参加するに当たり、救急受入の準備をしてきました。その中で、市道から入ったとき病院玄関が見えないという声が職員から上がりました。

玄関前の駐車場には２つのロータリーがあり、アカマツを中心に大きな木々が植栽されていました。このうち市道側の大きな方のロータリーを完全撤去して、もう一つのロータリーの方は高さのある木を伐採して見晴らしを良くしようということになりました。ロータリーの中は秘密基地ができそうなくらい、ちょっとした広さがあり、何かのゆかりで造られたものではないことを確認ののち、１月16日から３日間かけて撤去工事を行いました。また、玄関にある病院のサインもライトアップ工事をして夜間でもよく見えるようにしました。

工事後の玄関前は想像していたよりずっとスッキリとして、市道から玄関を見渡すことができるようになりました。市道10号線の改良工事も進められており、やがて病院前の道路も拡張される予定となっています。

地域医療、救急医療にいっそう開かれた病院となるよう変化していきたいと思います。

企画課長　森脇 祐治

医療安全管理室だより
こんなことしています

今までも 歩み続けます これからも

医療安全管理室で仕事をするようになり５年目を迎えました。『不束者ですがよろしくお願いします』と、ご挨拶をさせて頂いたのがつい此の間のような気がします。自分に何ができるのだろう、何をしなければならないかと手さぐりしながら、患者様・医療者に寄り添う姿勢を目標に活動してきました。患者様にも、お名前確認や、ネームバンドの装着、転倒予防への取り組みなど様々なご協力を頂いています。

私達人間は、100％ではありません。特に医療の現場では多くのリスクが潜んでいます。どんなに注意していても、ヒューマンエラーをゼロにすることはできませんが、限りなくゼロに近づけることはできます。愛媛医療センターでは、特に、毎月第３火曜日を「医療安全推進強化日」とし、指差し呼称の徹底など、全職種、全職員で医療安全の推進に取り組んでいます。オレンジ色の腕章を付けた推進委員を見かけたことはありませんか。

今年も、30余名の新しい仲間を迎え、新人研修をはじめとし、年間を通して医療安全研修を計画しています。また、２次救急病院としてもスタートしますので、救急対応に関する研修も予定しています。

皆さまに、安心・安全な医療が提供できるよう、全職員一丸となって頑張りたいと思います。今年度も、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

腕章をつけて執務する事務職員

ご利用ください 患者相談窓口

2012年から当院におきましても患者様、ご家族が安心して快適な医療を受けられるよう相談窓口が設置されました。

受付窓口は地域医療連携室です。地域医療連携室には常時６名のスタッフが配置されており、主に相談・意見・苦情等の受付、内容確認、そして関係部門への報告・連絡・相談・調整を行っています。患者サポートチームのメンバーは、統括診療部長、専門職、経営企画室長、地域医療連携室係長、地域医療連携室看護師・MSWと多職種で構成されています。メンバーは週1回の頻度で事例のカンファレンスを行っております。毎年相談件数は増加しておりその内容も多種多様です。昨年度は特に高額医療費控除についての相談が多くあったため入院患者様にわかりやすいパンフレットを作成しました。

まだスムーズな運用とは言えませんが、今後ますますこの窓口が活用されるようチームで取り組んでいけたらと思っています。外来、入院の患者様、ご家族、職員どなたでもいらしてください。どこに相談してよいかわからないことをまず言える窓口があるということを皆さんに知っていただき、相談内容に迅速に対応していきたいと思っております。

みなさん是非ご利用ください。チームでお待ちしております。

地域医療連携係長　小谷 加奈子

外来・エレベーターホールで
QC活動報告
ポスター展示

平成26年度より業務改善委員会では、病棟の業務改善・患者サービス・医療安全などの医療の質の管理・改善を目的に、QC的問題解決方法を使ってQC活動に取り組んできました。QC的問題解決方法とは問題が発生した原因にさかのぼって、“なぜ”“なぜ”を繰り返しながら、事実に基づいて、問題の原因を突き止め、解決するために適切な対策に取り組み、問題を解決することです。

今年度は、ベッド周囲のコード整理など患者様の安全に配慮した療養環境の整備や快適な職場環境にするための5S活動、外来患者様のニーズを取り入れたやさしい外来環境の改善などに取り組みました。また活動発表については、職員はもちろん患者様やご家族の方々に知っていただきたくポスター展示という形式をとりました。約1か月間の展示の間、ポスターの前で足を止めて読んでくださっている姿を見かけたり、活動への温かいコメントを頂きました。

今後も活動は引き継がれていきます。効果のあった対策を日常業務のルールの中で取り組むことによって逆戻りするのを防ぎ、決められたことが守られているか、効果が維持されているかを確認することが今後必要になります。引き続き各病棟全体で取り組んで参りたいと思います。

業務改善委員会　梅木 夕里香

四季燦餐
～アスパラガスの巻～

厳しかった寒さも和らぎ、暖かい風が心地よく感じられる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。ふきのとうや山菜など、春の訪れを知らせてくれる食材を目にする機会も増えてきたのではないでしょうか。

今回は、春先から初夏にかけて出回る“グリーンアスパラガス”についてご紹介します。

日本に入ってきたのは江戸時代で、当初は野菜ではなく、観賞用として栽培されていたそうです。その後、明治時代から食用として栽培されるようになり、昭和に入ってからサラダなどでおなじみの食材になったようです。冷涼地で栽培されるため、国内では北海道が主産地となっています。

太陽の光をたくさん浴びて育ったグリーンアスパラガスは、皮膚や粘膜を強くするカロテン、疲労回復、肌の新陳代謝を促進するビタミンB1、B2。免疫力を高めてくれるビタミンC、貧血予防と改善効果の高い葉酸など栄養素も豊富に含まれています。また、アミノ酸の一種であるアスパラギン酸を多く含んでいるため、疲労回復や美肌に効果が高い食材としても知られています。

茹でる場合は、切って茹でると旨味や栄養成分が溶け出てしまいますので、長いままで茹でるのがポイントです。また、茹であがったものを冷水にくぐらせると余熱で色が変わってしまうのを防ぐことができます。

フライ、ベーコン巻きやソテー、サラダなど、揚げる・焼く・炒める・茹でる…と調理方法によって、いろいろな味が楽しめます。

看護学校の頁　～学び舎から～

いくつもの日々を越えて 第十二回 卒業式 辿り着いた今がある

平成28年３月２日、私たち三年生29名は無事卒業の日を迎えることができました。当日は、学校長先生をはじめ、多くの来賓の皆様に出席していただき、数々のご祝辞と激励のお言葉を頂戴いたしました。

思い起こせば３年前の４月、見慣れぬクラスメートの顔と、これから始まる学生生活に緊張しながら入学式を迎えたことを今も鮮明に覚えています。看護学校に入学し、将来の夢へと近づいているという喜びを感じながら学生生活を送っていました。しかし、その思いとは反対に、３年間の学生生活の中には、壁にぶつかり、くじけそうになったことも多くありました。看護の道を歩むと決めた自分の決断は正しかったのかと悩んだことや、何もかもが嫌になり逃げ出してしまいたいと思ったこともありました。そんな時、先生方やクラスメート、家族の存在が私たちの支えとなり、次への原動力となりました。

看護学生としての３年間を終え、新たに看護師としてのスタートラインに立ちます。それぞれが抱く理想の看護師像に向かって一歩一歩力強く、歩んでいきたいと思います。今後、医学の進歩に伴い、看護師にもより専門的な知識や技術が求められます。しかし、知識や技術だけにとらわれるのではなく、この３年間で学んだことを忘れず、患者様の訴え一つ一つに耳を傾け、寄り添うことを大切にしていきたいと思います。

ここまで私たちを育ててくださった全ての皆様に感謝の気持ちを送りたいと思います。ありがとうございました。

卒業生代表　笹島 梨加

※本校は看護師国家試験に全員合格しました！

ちょっと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

今年の正月明けから、妻と二人で四国八十八ヶ所霊場巡りを始めた。現在（三月初め）愛媛県をほぼ廻り終え、そろそろ県外へ足を向けようかという段階だ。何かの発願をしたとか、神仏に帰依したとか、或いは、誰かの菩提を弔うとか、そういう大それた理由があるわけではない。折角四国に生まれたのだから、休日のドライブがてらに少しずつ廻ってみようかと思い立っただけだ。罰当たりな言い方をすれば、四国全体を使った巨大なオリエンテーリングか、スタンプラリーといったノリの俄か遍路である。

行った先々で産直市や道の駅に立ち寄り、新鮮な野菜や珍しい食材を買い求めたり、地元の名物に舌鼓を打ったり。或いは、観光名所に立ち寄ったり…どちらが主でどちらが従かわからない。およそ修行とか信心などとは程遠い遍路である。

それでも不思議なもので、納経帳に頂いたご朱印が増えるにつれて、少なくとも御堂の前で手を合わせている間は、敬虔なというか清々しい気持ちになれる。心の平安が得られるとでもいえばいいのだろうか。

山門で合掌して入山を請い、本堂に燈明と線香を手向けてご本尊の真言を唱え、大師堂でも燈明と線香を手向けて「南無大師遍照金剛」と唱えていると、日頃煩悩と悪徳にまみれ、十善戒などどこ吹く風といった生活を送っているドロドロの心が洗われていくような気になるのは、お大師様の功徳だろうかと思えてくる。

遍路とは、発願することよりも、長駆経巡り合掌礼拝する行為そのものが大切なのかもしれない。などと不遜にも解ったようなことを考えてしまうのはやはり、素人の野狐禅なのだろう。

歩くの嫌。階段も坂道も大嫌いな妻が、四十五番岩屋寺の長く急峻な参道で「これは修行じゃなくて、苦行よ」と罰当たり発言をすれば、私は私で「線香やロウソクの他にビールも売って欲しいよな」と更に大罰当たりな発言をするデコボコ夫婦遍路。妻との同行二人が結願する頃には、二人とも善男善女に生まれ変わっているだろうか。

樹懶菴

外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834　FAX 089-990-1858
外科外来直通電話 089-990-1835　FAX 089-990-1859

診療科		月	火	水	木	金
循環器内科		舩田	岩田 泉 河野	岩田 泉 檜垣	岩田	舩田
消化器内科		古田	山内（一）	久保 廣岡	山内（一）糖尿病専門 大藏	久保
呼吸器内科		阿部	伊東 渡邉	佐藤	阿部 大久保	伊東 中村
神経内科		小原	雑賀		小原	戸井
外科		石丸				
消化器外科			鈴木	森本	渡部（第3）	
呼吸器外科					佐野（第4） （14時30分～）	湯汲
整形外科 午前のみ診療		横手 宮本	曽我部	曽我部	宮本	曽我部（4/1） 大野（4/8～）
専門外来（予約制）	心臓外科外来				泉谷（隔週）	
	ペースメーカー外来				第2・4（午後）	
	糖尿病外来					古川（第2・4）
	フットケア外来				毎週	
	スキンケア外来		第1・3（午前）			
	ペインクリニック			山内（康）（午前）		
	じん肺外来					西村（第1・3）（午前）
	アスベスト外来		午後		午後	
	息切れ外来	渡邉（13時30分～）				
	SAS外来					渡邉（14時～16時）
	神経難病			橋本		
	小児（神経外来）	矢野		今井		矢野
	頭痛外来				永井（第2・4）（午前）	

※外来受付は8時30分から12時までです。内科は13時から16時までです。
　ただし、土・日・祝祭日・年末年始（12月29日～1月3日）は休診です。
※SAS（睡眠時無呼吸症候群）

2016年4月1日現在

独立行政法人国立病院機構　愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366　TEL 089-964-2411　FAX 089-964-0251
ホームページアドレス　http://www.ehime-nh.go.jp

当院の位置と交通

高速道路川内ICまでの所要時間

- ●三島川之江IC（70km）　50分
- ●高松西IC（130.9km）　1時間30分
- ●徳島IC（170.9km）　1時間50分
- ●高知IC（130.1km）　1時間30分

（川内ICから当センターまで車で5分）

交通機関

電　車　伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
　　または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
バ　ス　伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
自家用車　松山市から30分　伊予市から40分　西条市から60分
　　無料駐車場完備

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊誌へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会（担当：小倉）までお寄せください。